

**京セラ株式会社 2015年3月期 決算説明会での主な質疑応答内容**  
(2015年4月28日実施)

**【経営全般】**

Q:重点4分野について、2015年3月期(FY15)の売上規模はどの程度か。

A:重点4分野を合わせると連結売上高の9割程度を占められると思われる。医療・ヘルスケアは数%程度の構成比と小さい。情報通信が一番大きく、各種部品から携帯電話端末や情報機器も含めており、連結売上高の6割程度。環境・エネルギーは、現在は主に太陽電池だが、全体の2割程度を占める。車載市場は1割程度。

Q:売上高2兆円達成時期はいつになるのか。

A:2兆円はできる限り早く達成したい。可能であれば2017年3月期(FY17)に達成したいが、各事業の状況を勘案し、2018年3月期の達成を目指す。M&Aは活用していきたい。M&Aの規模のイメージとしては、1,000~1,500億円程度になると思う。ソーラーエネルギー事業の伸び率が低下していくと思われるが、それ以外で伸ばしていきたい。

Q:売上高2兆円、税引前利益率15%を目指すうえでのM&Aのターゲットを教えてください。

A:M&Aはチャンスがあれば実施したい。色々な事業でシナジーが出せるものを探している。規模の大きな分野としては、スマートフォン用部品や自動車用部品等が対象といえる。当社に無いリソースとしては、半導体を含めたセンサー類。あるいは、一般部品であっても、例えば京セラのコンデンサは限られた分野でしか展開していないが、自動車向け等も手掛けていきたい。

Q:事業拡大のスピードアップを図るとのことだが、どのようにスピードアップを図るのか。

A:何を伸ばしていくのかという点については、京セラは色々な製品を手掛けているが、セラミックパッケージ以外は全体的にシェアが低い事業が多い。ある特定の領域しか手掛けていないという要素も大きく、品揃えを増やせば伸ばせる事業もある。シェアを上げるには、当社がこれまで手掛けていない新たな分野も手掛けることが重要。

Q:「経営基盤の強化」について、具体的な取り組みを伺いたい。本社部門の事業投下資産が、FY15末で2014年3月期(FY14)末に比べ3,000億円ほど増えているが、この増加分が経営基盤の強化を意味しているのか。

A:経営基盤の強化については事業展開のグローバル化を進めている。各国に工場や営業拠点を拡充している。工場については主に中国やベトナムで拡張している。FY15に本社部門で3,000億円程度事業投下資産が増えているが、これは主に、保有しているKDDI株式の株価上昇が主要因。3,000億円のうち、8割程度がこの要因。

Q:シナジーを最大限に活かすため、個別事業部門でなく、コーポレート部門が M&A についてアクションを取るといったことはないのか。

A:M&A については各事業部門でも検討しているが、コーポレート部門でも検討しており、ボトムアップとトップダウンの2つの視点で検討を進めている。

#### 【資本政策・資本効率】

Q:KDDI 株式を保有していることの京セラの事業に対するメリットについて教えてほしい。また、今後、KDDI の株式については売却、もしくは買い増しによる持分法化や子会社化ということも考えられるか。

A:現在、買い増しによるグループ会社化については考えていない。京セラと KDDI は密接な関係がある。重要な客先であり、大事なビジネスパートナー。携帯電話端末や使われる部品の開発においても重要であり、売却も考えていない。

Q:資金の使途について方針に変化はあるか。

A:売上高 2 兆円、税引前利益率 15%を目指し、基本的には既存事業で伸ばすが、今後は M&A を行わないと大きく伸ばすことは難しいと考えている。社内では M&A についても大規模案件を視野に入れ動きを加速させている。この部分は以前と変わってきている。一方で、自社株買い、配当等の株主還元の基本方針は変わっていない。利益をしっかりと出して、配当を増加させて還元していきたい。

#### 【情報通信市場向け部品】

Q:スマートフォン向け部品の売上拡大について。セラミックパッケージやコンデンサ、水晶部品等が挙げられているが、FY15 に各製品は FY14 比でどの程度伸びたのか。また、各製品の事業環境を教えてほしい。

A: 2016 年 3 月期 (FY16) にはスマートフォン向け部品全体で 3 割程度伸びる予想だが、FY15 は FY14 比で、セラミックパッケージは約 3 割の増収、コンデンサは約 6 割の増収。水晶部品は微減。水晶部品は、FY16 は新製品投入により FY15 に対して約 7 割増となる予定。

Q:スマートフォンに搭載されるカメラは、来年からデュアルカメラ化の流れが起きてくると思う。デュアルカメラ化に伴って京セラのイメージセンサー用セラミックパッケージは、有機パッケージに対してどのような訴求点があるか教えてほしい。

A:現在のスマートフォンにもカメラは2つ搭載されている。イメージセンサー用セラミックパッケージの採用理由で一番の要因は薄型化。ただし、当社は客先の様々なニーズに応えられるようにしていきたい。そのためにセラミックだけではなく、有機パッケージも手掛けており、また、セラミックと金属を使ったハイブリッドのパッケージも開発している。ハイブリッドのパッケージは耐久性（強度）に優れている。このような様々なバリエーションを持つことで、売上を伸ばしていきたい。

### 【電子デバイス関連事業】

Q:AVXを除く電子デバイス関連事業の各事業について、今後どのように伸ばしていくのか。

A:売上の伸びが鈍いのはディスプレイ事業が要因。タッチパネルについてはFY15までに終息した。FY16以降、売上増にブレーキがかかる製品が少なくなっていく。FY17からはディスプレイも伸びるフェーズに入る。産業機器、医療、車載関連のディスプレイはFY17から伸ばしていける。

### 【通信機器関連事業】

Q:営業権を今回減損したが、通信機器関連事業についてはあるべき体制になったのか、それとも、もう一段の構造改革が必要なのか。

A:今期より通信機器関連事業のマネジメント体制を変更し、組織も変えた。FY16については積極的に売上を伸ばすというより、しっかり利益を出していく方針に変更した。円安も進んでいることから、部品調達面等を考えていかなければならない。市場が縮小していくという見方はしていない。当社の差別化機能を搭載した製品は受け入れられている。売上規模と利益確保のバランスを取っていくことが課題。

### 【一時損益】

Q:FY15にファインセラミック応用品関連事業で資産を評価減したが、FY16業績への効果はどの程度あるのか。また、FY16のその他の事業での資産売却益はどの程度の規模か。

A:ファインセラミック応用品関連事業での評価減は100億円といった大規模なものではないが、数十億円の規模。資産売却益については100億円程度の規模。

以上